（環境動態部門）

# 福島から世界へ

## カメラトラップによる野生動物モニタリングとそのネットワーク形成

国立環境研究所　〇深澤 圭太、吉岡 明良

国立環境研究所では、2014年度から避難指示区域内外でカメラトラップを用いた野生動物のモニタリングを実施しています。それにより、カモシカや外来種アライグマの出現範囲の拡大が生じたことがわかってきました。2023年度からは、世界規模のカメラトラップ調査の日本版「Snapshot Japan」を立ち上げて、福島サイトをその拠点に位置付けています。それにより、様々な空間スケールでの調査研究に活用できるデータが得られると期待されます。

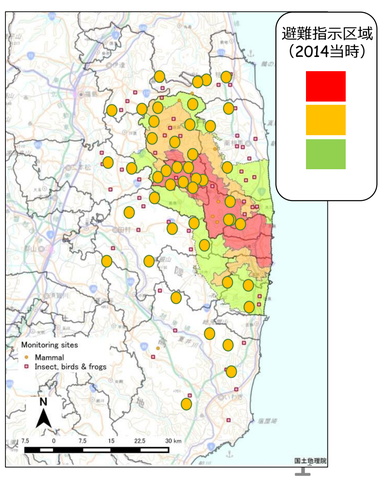
## 野生動物のモニタリング

野生動物：古くから人間と深い関係、狩猟圧や土地利用変化など人為的インパクトに鋭敏に反応

⇒避難指示や復興に伴う生態系変化の指標として適した性質

### 〇避難指示区域内外のカメラトラップ調査

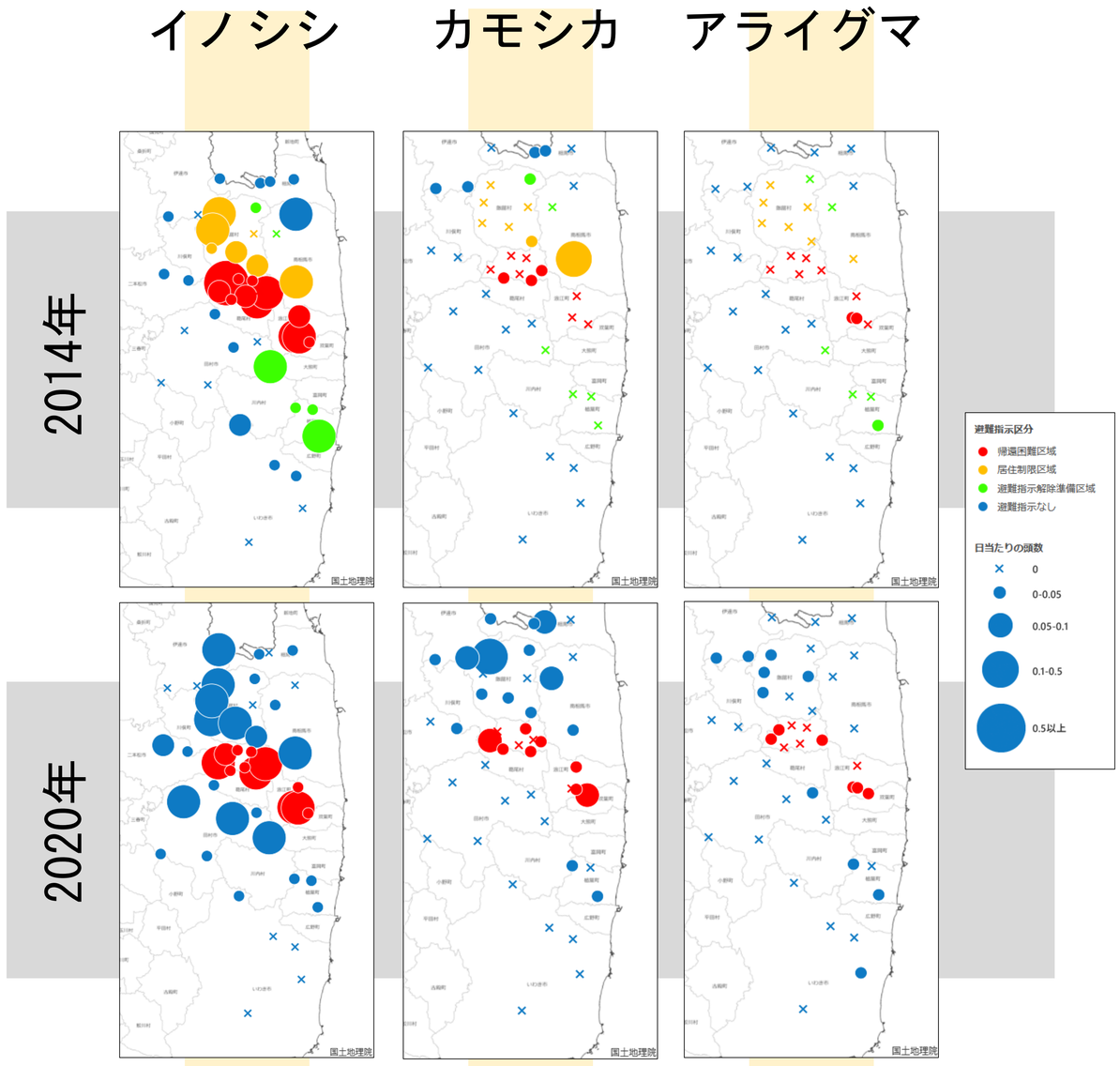
2014年から避難指示区域内外の計46地点に赤外線センサー付きカメラ（カメラトラップ）を設置




オープンサイエンス推進の観点から、データペーパーとして生データを速やかに公開(Fukasawa et al. 2016 Ecol Res)

## 結果の例

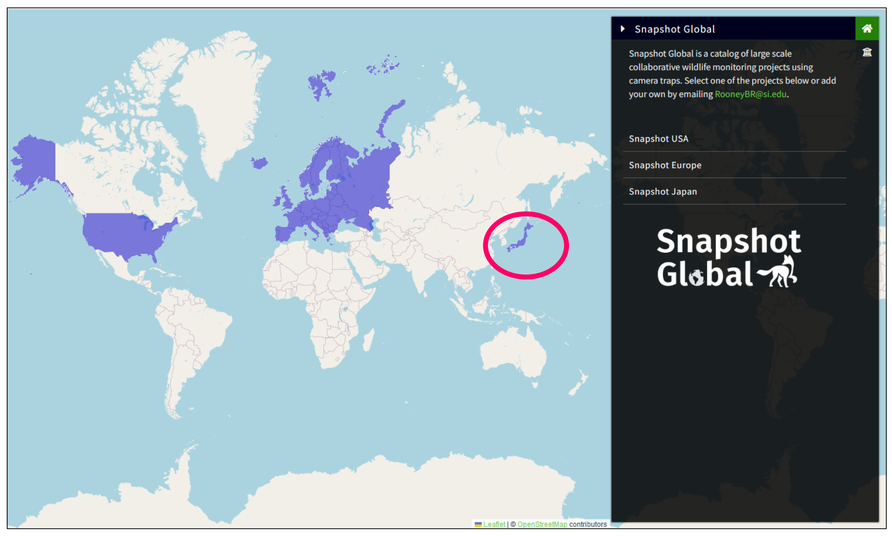
複数種で出現範囲や撮影頻度の増加が確認された




国立環境研究所, JBIF (2015) 福島県東部の野生動物, 生物多様性ウェブマッピングシステム (BioWM), 国立環境研究所 生物多様性領域制作, CC BY 4.0.

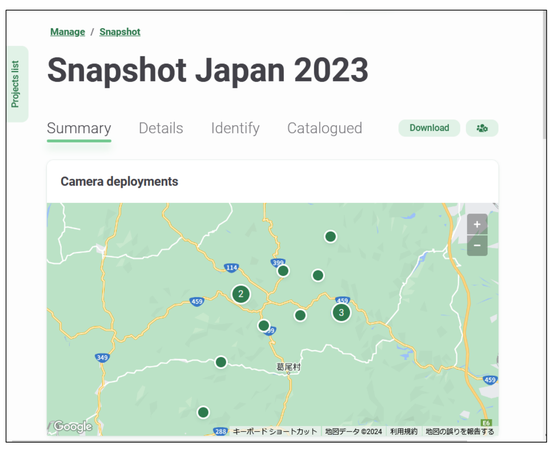
## 世界規模のカメラトラップネットワーク「Snapshot Japan」

2023年より、他機関の研究者と共同で世界共通ルールに基づくカメラトラップモニタリングのネットワークSnapshotの日本版「Snapshot Japan」を設立




https://snapshot-global.org/

※福島サイトも立ち上げ時からの観測拠点として組み込み




プロトコルの概要：

① 毎年9,10月に調査実施

② 1サイトあたり8地点以上のカメラトラップ地点（カメラ間距離200m-5km）

③ 静止画3-5連射

https://www.nies.go.jp/biology/snapshot_japan/index.html

2024年からオンラインで参加サイト公募（7/15〆切）

⇒ローカルから全球まで、幅広い空間スケールで使えるデータに